

組織的な大学院教育改革推進プログラム（旧：大学院教育改革支援プログラム）  
平成 20 年度採択

「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」

平成 22 年度

前期ガイダンス資料

奈良女子大学大学院  
人間文化研究科

< 2010 年 4 月版 >

博士前期課程

国際社会文化学専攻

人間行動学専攻

住環境学専攻

生活文化学専攻

#### 目次

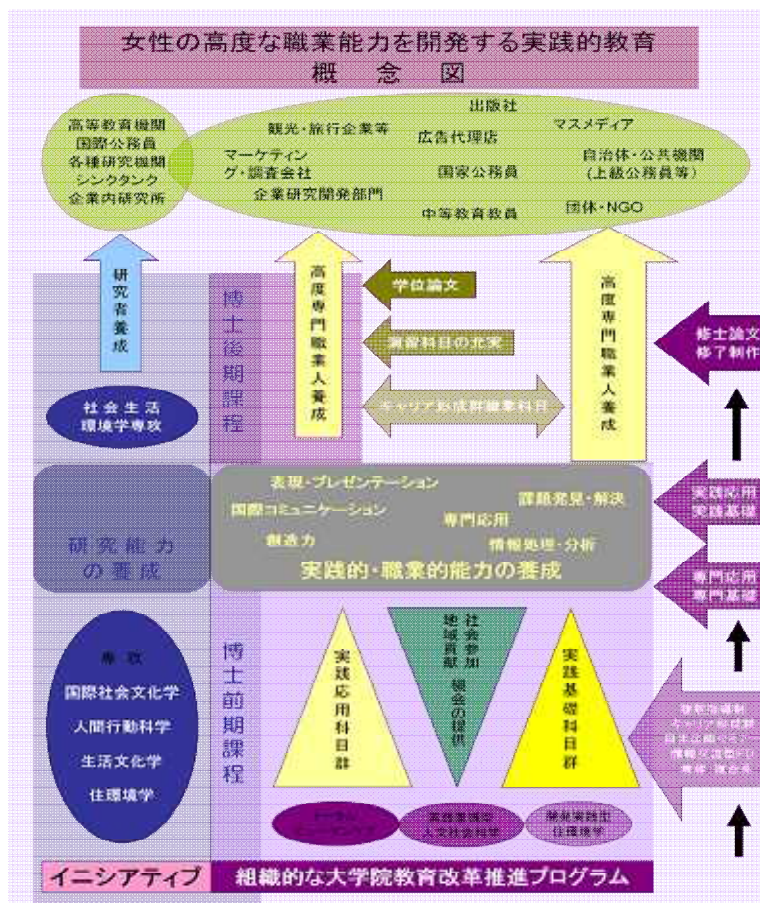
はじめに	1
本プログラムの目的	2
実施事業の概要 自主活動支援事業・広報活動	3
カリキュラムと授業	4
関連する授業一覧	5
授業情報	6
学習支援体制と連絡先	9

## はじめに



プログラム代表

出田和久



本プログラムは「大学院教育振興施策要綱」（平成 18 年 3 月 30 日）の策定をうけてはじまった「大学院教育改革支援プログラム」として平成 20 年度に採択されたもので、高度専門職業人の育成に資するように従来の教育カリキュラムに実習・実践的な側面を強化して実施するものです。本学大学院は研究者および高度専門職業人の育成を目指しており、既に研究者養成に重点を置いた教育プログラムである「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」（平成 17 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択）を実施しています。今回、本プログラムが採択されたことによって、高度専門職業人の育成についてもより体系的な教育プログラムが実施できることとなったといえるでしょう。

現代社会は技術革新が急速に進展する環境変化の激しい時代なので、一度獲得した新しい知識や技術も直ぐに陳腐化してしまいがちです。したがって、個々の具体的な技術やスキルの獲得は必要なことではありますが、より一層求められることは、具体的な技術やスキルに接し、その経験を基礎として、新しい

課題に直面した時に、その解決のためにはどのような技術・スキルが必要であり、それをどのように応用するかを実践的に考える力（専門応用能力）を培うことといえるでしょう。そのために、調査やフィールドワーク、インターンシップ実習をカリキュラムに取り入れ、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成しようというものです。具体的には、従来の幅広い専門的知識と視野を獲得する教育のプログラムに、文化財の AV 機器による撮影・編集・記録のためのスキルを学んだり、身体や心の機能をトータルにとらえ評価するための人体機能計測をおこなったり、都市・集落・住居の環境を総合的に解析するフィールドサーベイを実施したり、様々な実習・実践的要素を加味したプログラムを加えて展開するものです。本プログラムを履修した修了生が、社会においてその力を存分に発揮し、真の男女共同参画社会の実現に貢献してくれることと期待しています。



# 本プログラムの目的

このプログラムでは、特に高度専門職業人の養成を念頭に、主として博士前期課程の教育の実質化を図るために、従来なかった実践的な授業科目をカリキュラムに取り入れ、大学院生の皆さんのキャリア形成を支援します。

## 総合的な実践的科目群を展開！

本プログラムの基本的な特徴は、歴史的に培われた本学の総合力を生かし、社会・文化・人間・環境・生活に関する専門的教育研究に加え、実習・実践的な側面を強化したカリキュラムを編成しています。

各専門領域で「実践基礎群」・「実践応用群」科目を展開し、従来の演習科目に加え調査やフィールドワークを基礎に、情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力、およびそれらを発信するコミュニケーション能力などを養成します。

## 具体的で関心に密着した実践基礎群科目！

限定された課題や能力に関わる、比較的短期で展開する実践基礎群科目を強化・新設し、技術・技能の開発・伝達をめざし、学生の実践的な関心に応えます。これらの授業は、専任教員のみでなく、専門的な職域で深い知識や豊かな経験と能力を発揮している社会人や本研究科修了者をゲストスピーカーとして招くなど、多彩に展開されます。

## 専門的能力を磨き上げる実践応用群科目！

従来の演習科目の内容を充実させたり、あるいは新設したりして実践応用群科目を作り、1年次の後半から2年次にかけての時期を中心に密度の濃い実践的学習を行います。この科目群では、現地調査やフィールドワーク、制作実習など、座学では得られない実践的かつ専門的能力の向上をめざします。

## イニシアティブ事業を継承し、研究者にも！

高度な専門的知識を提供する現在の専門基礎、専門応用の2つの科目群について各々の授業の改善を図ります。また、主として研究者養成を念頭に置いた「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」事業を、高度な専門的能力の育成を図る方向で継承し、マネジメント能力を養成する研究マネジメント群科目や自覚的にキャリア形成を図るためのキャリア形成群科目を充実させます。

## 学生の意欲的な自主活動をバックアップ！

さらに、自主的な研究会・セミナーや本学の地域貢献事業、たとえば地域女性リーダー育成事業などの企画と運営に参加する機会を設けることによって、生きた能力を身に着けることをめざします。各種の授業や機会を系統的に活用することで、着想と提案の意欲と能力を備え、実践型の企画・マネジメント能力等に秀でる女性を社会に送り出します。

学生による自主的なセミナー開催を人的・経済的にバックアップし、学生個人の口頭発表や作品の発表を経済的に支援します。

## 評価方法の改善

この学習・研究の展開から従来の修士論文とは異なるタイプの成果が出てきた場合、それを修了研究の一部、あるいはそれに替わるものとして認め、修了認定における評価対象とします。



インターンシップ専門実習(国際社会)：H21年度

## \* 博士後期課程について \*

社会生活環境学専攻は、研究者及び高度専門職業人の養成を目的としており、上記プログラムを経て進学した学生について、より高度な実践的能力を開発します。社会のニーズに直結する実践的研究課題を追求する研究者や、専門知識を背景に組織を指揮・運営する女性リーダーをめざすよう促します。

このように、現地実習、フィールドワーク、インターンシップ、キャリア形成科目、及び住環境に関する演習科目などにより、専門応用能力、課題発見・解決能力、総合的判断力、の伸長へとつながる、受動型から能動型へと変貌を促す女性高度専門職業人育成プログラムを構築します。とりわけ女子大学という教育環境を活かし、実践的課題を志向する女性能力・個性をのびのびと発展させ、本教育プログラムにおいてその個の力を社会的貢献に資する段階へと高めていきます。

## 実施事業の概要

### 自主活動支援事業

院生が主催する研究会やセミナーの開催、また研究成果の公開について支援します。いずれも募集要項をよくご確認の上、必要事項を規定の応募書式に記入して、大学院 GP(人社系)事務局に期日内に提出してください。

募集要項は本プログラム HP よりダウンロードするか、事務局までお問い合わせください。

#### 院生自主企画支援

関心を持つテーマについて学生が研究会やセミナーを開催するにあたり、講師の斡旋や交渉、運営などについてのアドバイスや、招聘する講師の方への謝金・旅費（近畿圏以外の場合について1泊分の宿泊費）の支援を行います。

**平成 22 年度前期分を 4 月中旬までに募集します**  
**応募を考えている方は掲示もしくは本プログラムHPをチェックしてください。**  
**(後期にも募集を行う予定です)**

\*平成 20 年度支援実績 : 4 件

\*平成 21 年度支援実績 : 7 件

#### 研究・活動成果公開のための研究集会参加助成

院生が研究集会・講演会・大会等で研究成果を発表する際の参加費を援助します。

**平成 22 年度研究集会参加助成を 4 月中旬までに募集します**  
**応募を考えている方は掲示もしくは本プログラムHPをチェックしてください。**

\*平成 20 年度助成実績 : 論文掲載助成 4 件 / 研究集会参加助成 1 件

\*平成 21 年度助成実績 : 研究集会参加助成 12 件

### 広報活動

大学院 GP(人社系)ホームページを開設しています

<http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>

プログラムの活動、院生自主企画、研究成果公開助成などの情報を公開していきます。

#### メールニュースの配信

ホームページと同様に TA の募集や院生自主企画、研究成果公開助成などの情報をお届けします。また自主企画や授業の報告なども掲載します。

\*メールニュースの配信は月 1 回（15 日頃）です。配信をご希望の方は、タイトルに「GP メールニュース配信希望」、本文に「名前、所属、配信先メールアドレス」をご記入の上、メールにて [gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp) までお送りください。次回分より配信させていただきます。

#### ニュースレターの発行

ホームページ、メールニュースと同様に、院生自主企画や授業報告などの情報を掲載していきます。発行は年 4 回程度の予定です。

バックナンバーは事務局で手に入れることができます。

# カリキュラムと授業

## 科目群とは

本研究科は、前期・後期両課程を通して、男女共同参画社会をリードする研究者および高度専門職業人の養成を目的として掲げています。このプログラムに参加する5専攻のカリキュラムは、この目的を達成するために下記のような科目群を設定し、キャリア形成を念頭においた科目選択を支援しています。

### 研究マネジメント群およびキャリア形成群

研究者あるいは高度専門職業人としての研究推進とキャリア形成に役立つ授業群です。2009年度・2010年度入学者は二つの群から計2単位以上を、2008年度以前の入学者はそれぞれから1単位以上を、選んで受講してください。前期各専攻では、一部のインターンシップ専門実習など特別に相談の必要な場合を除き、専攻を超えて受講できます。

### 専門基礎科目群および専門応用科目群

各専攻において大学院修了者にふさわしい一般的能力の養成をめざす授業群です。

### 実践基礎科目群および実践応用科目群

高度専門職業人としてのキャリア形成のために、実践的に役立つスキルの修得をめざして開設された授業群です。

**注意** インターンシップ専門実習および専門・実践の4科目群の各科目を、専攻を超えて履修する場合、指導教員および授業担当教員にご相談ください。

## 修士論文等の作成

修論のためには、研究結果を論文その他の形にまとめ、審査を受けることが必要です。学術論文に換え、あるいはそれに併せてなんらかの制作物等を提出する場合には、あらかじめ指導教員に相談してください。

	博士前期課程		修了必要単位数
研究マネジメント科目群	合計2単位以上	合計24単位以上 (住環境学専攻は20単位以上)	合計 3 2 単 位 以 上
キャリア形成科目群			
専門基礎科目群			
専門応用科目群			
実践基礎科目群			
実践応用科目群	合計20単位以上 (住環境学専攻は18単位以上)		
論文等作成	8単位(住環境学専攻は12単位)		

## その他履修の仕方

### \*履修計画のたて方について

専攻毎に履修モデルを作成しています。ただしどの専攻も、分野が多岐にわたるため、あらゆるケースを網羅しているわけではありません。大学院進学のための目的と将来の進路設計を明確にして、指導教員のアドバイスを受けながら履修計画を立ててください。

### \*学部授業の受講について

学部のキャリア形成科目(教職科目も含まれます)は、受講制限を超えて履修できます(修了要件単位にはなりません)。必要なものを計画的に履修してください。

### \*授業への参加について

大学院では、どの授業でも学生の主体的な参加を前提にしています。インターンシップなど学外の社会人の方と接触する授業では学生としての謙虚な態度に配慮しつつ、積極的な学習活動を行ってください。

### \*カリキュラムや受講についての相談

社会人としての制約による必修授業の受講方法その他履修の仕方について、指導教員、授業担当教員の他、専攻の助教等にもご相談ください。

## プログラムの改善について

本プログラムは、学生の皆さんのニーズに応えるために機動的に改善を図ります。どんな相談でも、プログラム全体の改善のために役立つので、遠慮なく適当な教員、特任助教、あるいは本プログラム担当の教務補佐(久保：文学系担当、道端：生環系担当、事務局常駐)にお伝えください。

## 関連する授業一覧

### 研究マネジメント群およびキャリア形成群

	群	科目名称	単位	開講期	時間割	備考
博士前期課程	研究マネジメント群	専門応用英語	1	前期	不定期	
		専門応用英語	1	後期	不定期	
		プレゼンテーション演習	1	前期	火7・8	
		プレゼンテーション演習	1	後期	火7・8	
	キャリア形成群	女性専門職キャリア論	1	前期	集中	
		女性研究者キャリア論	1	前期	不定期	
		インターンシップ実習	1	前期	金7・8	企業訪問は不定期
		インターンシップ専門実習	1	不定期	集中	人間行動科学
		インターンシップ専門実習	1	前期	不定期	国際社会文化学(奈文研)
		インターンシップ専門実習	1	前・後期	不定期	国際社会文化学(マスコミ)
インターンシップ専門実習	1	不定期	集中	生活文化学(国際教育交流団体)		

博士後期課程	研究マネジメント群	研究交流英語	1	後期	不定期	
		研究プロジェクト演習	1	不定期		
		研究プロポーザル演習	1	後期	不定期	
	キャリア形成群	グローバル社会と女性の専門性	1	前期	集中	
		インストラクション法実習	1	不定期	集中	

### 各専攻授業一覧

実践基礎・実践応用群の一覧です。

専門基礎・専門応用群についてはシラバスが CAMPUS LIFE をご覧ください。

専攻	科目名称	単位	科目群	開講期	時間割	備考
国際社会文化学専攻	文化史総合演習	2	実践応用	前期	水5・6	
	Web情報実習	1	実践応用	後期	水5・6	
	地域環境調査法	2	実践基礎	前期	不定期	
	GIS分析演習	2	実践基礎	後期	金3・4	
	地域・文化コンテンツ制作実習A	1	実践応用	前期	金9・10	
	地域・文化コンテンツ制作実習B	1	実践応用	後期	火9・10	
	実践スキルゼミナール(古文書調査実習A)	1	実践基礎	前期	月9・10	
	実践スキルゼミナール(コンテンツ公開実習)	1	実践基礎	後期	不定期	詳細未定
人間行動科学専攻	実践スキルゼミナール(スポーツ科学)	1	実践基礎	前期	水5・6	
	実践スキルゼミナール(心理学)	1	実践基礎	前期	木1-4	隔週
	実践スキルゼミナール(心理学)	1	実践基礎	後期	木1-4	隔週
	教育文化情報学実習	1	実践基礎	前期	木5・6	
	スポーツ情報学演習	2	実践基礎	後期	木5・6	
	認知技能論演習	2	実践応用	前期	火3・4	
	人体機能計測実習	1	実践応用	後期	集中	
	スポーツビジネスライアル演習	2	実践応用	後期	月7・8	
住環境学専攻	フィールドサーベイ	4	実践基礎	不定期	不定期	
	住環境設計特論	2	実践応用	後期	集中	
	住環境学実務実習	4	実践応用	不定期	不定期	
	住環境学インターンシップ	7	実践応用	不定期	不定期	
	住環境学インターンシップ	7	実践応用	不定期	不定期	
生活文化学専攻	企業文化論	2	実践応用	前期	月3・4	
	消費行動環境論演習	2	実践応用	前期	月5・6	
	比較生活人類学演習	2	実践基礎	後期	金3・4	



## 授業情報

初回ガイダンス等の案内です。よく読んで、間違えないようにしてください。

### 研究マネジメント群およびキャリア形成群

専門応用英語	
担当	増井正哉・関口正也(非常勤講師)
開講計画など	【前期集中】 5～7月の土曜日に2日間実施 日程、教室は初回ガイダンス時に指示します。 グローバル化する社会の様々な場面(ビジネス、学術、調査、研究等)で必要とされる実践的な英語活用能力を講義とプレゼンテーションの演習を通じて習得します。
初回ガイダンス	4月15日(木) 9・10時限 E251室
連絡先	増井 mmasui@cc.nara-wu.ac.jp (*連絡はe-mailで)
連絡事項	原則として前期を国際社会文化学専攻、生活文化学専攻、後期を人間行動科学専攻、住環境学専攻を対象としますが、履修者20名を上限として調整は可能です。履修希望者は初回ガイダンスに出席すること。
その他特記事項	後期も11～12月の土曜日に2日間集中で実施します。

プレゼンテーション演習	
担当	鍛冶幹雄
開講計画など	前期後半、後期後半:火曜日7・8時限 <前期開講> 6月22日(火)から6回 <後期開講> 12月7日(火)から6回
初回ガイダンス	4月13日(火)14:40～15:15 E107室
連絡先	鍛冶幹雄 mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp 電話:20-3781
連絡事項	学部卒論テーマや専門研究テーマなど15・20分/人程度(質疑応答含む)で2回程度の発表を経験する。受講者は自身の発表とともに他の人の発表の討議に教員とともに参加する。自身の考えを論理的に伝えることや、他の人の発表の良否を身近に見聞きすることにより、プレゼンテーションの極意を実践的に会得する。原則パワーポイントで発表。タイムキーパーなど役割も分担する。詳細は、初回のガイダンスで説明するので出席のこと。
その他特記事項	

女性研究者キャリア論	
担当	成瀬九美・中山 徹・吉田容子
開講計画など	1回目:4月24日(土) 1～2コマ、N201にて *ガイダンスを含む 2回目と3回目:5月中の土曜日または日曜日に予定(開講日時と教室については1回目授業および掲示にて通知します)
初回ガイダンス	:4月24日(土) 1～2コマ
連絡先	成瀬九美 k.naruse@cc.nara-wu.ac.jp 研究室:N121室
連絡事項	あらかじめ履修登録を済ませること。成績評価は、授業内レポート、授業外レポート、授業への参加度を踏まえて行います。つまり、出席が大前提となります。やむをえない事情で欠席する場合は、あらかじめ(事情によっては事後)担当者(成瀬)まで必ず連絡すること。無断欠席者は成績評価の対象外となるので、十分気をつけるように。
その他特記事項	

女性専門職キャリア論	
担当	向井洋一・栗岡幹英・星野聡子
開講計画など	第1回:6月 2日(水)16:20～17:50・D120室 講義(含・オリエンテーション) 第2回:6月 5日(土)10:00～15:00・D120室 ゲストスピーカー講演・全体協議 第3回:6月 9日(水)16:20～17:50・D120室 講義 第4回:6月12日(土)10:00～15:00・D120室 グループ討論・全体発表会
初回ガイダンス	第1回講義の冒頭にてオリエンテーションを行う。
連絡先	向井 mukai@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	授業日程や教室の変更などがある場合は掲示にて行う。掲示がない場合は、本ガイダンス資料の日程に従い行う。受講登録後、授業に出席できないなどの理由が生じ受講を取りやめる場合は、事前に担当者にメールにて連絡すること。なお、開講後は受講登録取り消しの扱いは行わない。
その他特記事項	出席は成績評価の項目としないが、講義に出席しないものの成績評価は行わない。

インターンシップ実習	
担当	鍛冶幹雄
開講計画など	前期:金曜日午後または水曜日午後
初回ガイダンス	4月16日(金)14:40～16:10 E107室
連絡先	鍛冶幹雄 mikio-kaji@cc.nara-wu.ac.jp 電話:0742-20-3781
連絡事項	広く様々な職場を訪問し、見学・質疑応答などにより、自身の将来のキャリアにつき考えさせる。専門分野に限らず視野を広げるとともに大学での研究が社会でどのように活かされているか実感させる。また女性がどのように活躍しているかにも焦点をあてる。今年度は15箇所程度の企業などの訪問(一部は講義形式)を予定している。必要回数のお出席とレポート提出により単位を与える。詳細は、初回のガイダンスで説明するので出席のこと。
その他特記事項	

インターンシップ専門実習	
担当	内田忠賢
開講計画など	4月28日(水)12時20分～50分に、N339室にてガイダンス。6月(予定)の土曜を2日(2回)終日使い、朝日新聞社OB4人の指導のもと、大阪市内の現場にてジャーナリズム実習を行います。詳しくは、ガイダンス時に説明します。実習中の課題のほか、事前、事後のレポート提出をお願いします。
初回ガイダンス	4月28日(水)12:20～12:50 N339室
連絡先	内田忠賢(社会情報学) tuchida@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	2日間の土曜日終日を実習に使うこと。実習は大学内ではなく、大阪市内で実施すること。実習先までの交通費および昼食代は自己負担すること。なお、実習費等の徴収はありませんので、ご心配なく。
その他特記事項	ジャーナリズム業界に関心がある学生であれば、単位外にはなりますが、博士後期生、学部生のご参加も歓迎します。



専門基礎・専門応用科目群、実践基礎・実践応用科目群

文化史総合演習	
担当	山辺規子、前川佳代(国際社会文化学特任助教)
開講計画など	水曜日5・6限
初回ガイダンス	4月14日(水)5・6限を予定 *文学部南棟改修工事の都合により変更の可能性があります。
連絡先	
連絡事項	基本的には、古代文化地域学コースないし比較歴史社会学コースの院生が受講対象です。 それ以外のコースの院生も受講可能ですが、あらかじめご相談ください。
その他特記事項	初回ガイダンス日程・教室および連絡先などは、掲示などで連絡します。受講希望者はご注意ください。

地域・文化資源コンテンツ制作実習A	
担当	寺岡伸悟
開講計画など	前期金曜日9・10限 奈良を地域資源とするために、調査、インタビュー、さらに写真などの記録、さらにそうしたコンテンツの整理から報告作品制作までを行う。実習形式。 調査や作業は上記授業時間以外にも行うことがある。
初回ガイダンス	日時は授業計画どおり。場所はN330室。
連絡先	寺岡伸悟 tera@cc.nara-wu.ac.jp
連絡事項	とくになし。
その他特記事項	

地域環境調査法	
担当	高田将志・吉田容子
開講計画など	【前期不定期集中】 5月31日(月)～6月3日(木)に、3泊4日で、新潟県燕市～長岡市周辺にて本調査の実施。 4月～5月中に、事前発表会を1～2回 6月～7月中に、事後発表会を1～2回 実施予定。事前、事後発表会の日程については、初回ガイダンス時に調整。また、事後発表会終了後に、最終調査レポートを提出してもらいます。
初回ガイダンス	日時:4月9日(金)16:00～17:30 場所:S122室 人文社会学科実習演習室(地図室)
連絡先	高田将志 takada@cc.nara-wu.ac.jp 電話:0742-20-3323 研究室:S112室 吉田容子 yoko@cc.nara-wu.ac.jp 研究室:S113室
連絡事項	初回ガイダンスと、上記「開講計画」に示した全日程および、事前・事後発表会にすべて出席可能な人のみ、受講できます。また、本調査時の旅費・宿泊費については、受講者の自己負担となりますので、あらかじめ留意しておいてください。
その他特記事項	不明の点があれば、上記「連絡先」の高田(連絡がつかない場合は、吉田)まで、できるだけ早く問い合わせてください。

## 学習支援体制と連絡先

### 特任助教

授業・学習のサポーターとして、各専攻に特任助教を配置しています。  
先生方の待機場所は各専攻で確認してください。

- ・前川佳代（国際社会文化学）
- ・池田曜子（人間行動科学）
- ・中迫由美（住環境学）
- ・姫茹（住環境学）

### 大学院 GP（人社系）事務局

教務補佐員が常駐しています。

機材・図書の貸し出し、GP 関連事業の各種受付を行います。また発行物のバックナンバーもこちらで閲覧できます。

#### 大学院 GP（人社系）事務局

新 E 棟 154 室

開室時間 月～金、10:00～17:00（12:00～13:00 は休憩）

電話 0742-20-3523（内線）

メール gp-zins@cc.nara-wu.ac.jp

HP <http://www.nara-wu.ac.jp/grad-GP-life/>

教務補佐員 道端良子、久保美知子

### 機材・図書の貸し出しについて

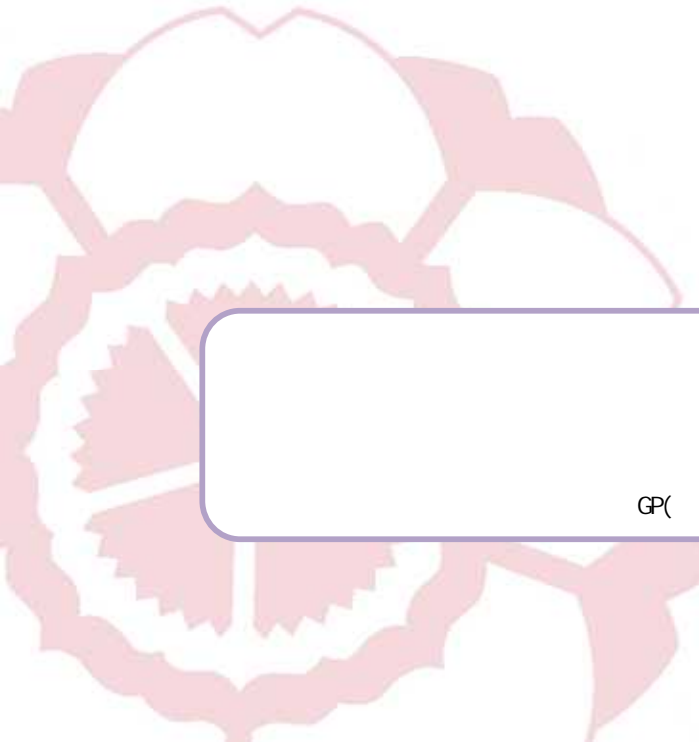
機材・図書の貸し出しを行っています。貸し出し期間は機材は 1 週間、図書は 1 カ月が基本です。

#### 貸出可能機材

- ・ノートパソコン(A4、B5 サイズ)
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・デジタルカメラ
- ・デジタルビデオ
- ・ポータブル MD レコーダー
- ・IC レコーダー
- ・卓上ベル
- ・プレゼンテーションリモコン
- ・ストップウォッチ
- ・延長コード

\*その他ご相談に乗ります。





組織的な大学院教育改革推進プログラム  
「女性の高度な職業能力を開発する実践的教育」ガイダンス資料  
発行 代表 出田和久  
発行日 2010年4月8日  
作成 大学院 GP(人社系)事務局 (E154 室、0742-20-3523)